

教えて 学んで 楽しもう

学びのトレジャー

Vol.7

2024年3月8日

『連想』によって 単語の関連をまとめる指導の試み ～「深い学び」の実践を通して～

熊本信愛女学院中学高等学校

原田 尚孝 先生

本授業のねらいは、単語指導の際に、日本語の意味を教えて終わりではなく、単語同士を関連付ける学びを促すというものです。

生徒達は英単語連想ゲームで単語間の関連を考える活動の後、複数の単語から関連する1語を考え、それらを使って「まとまりのある文」を作り、発表しました。以下が指導の実際です。

(1)まず、教師が準備した英単語連想ゲームの問題を解きます。下はその問題例です。

fine,cloudy,rainy,snowy→weather
spring,summer,fall,winter→season



(2)次に、個人で問題を考えます。その際、単語間の関連（種類、順序、階層、部分－全体の関係など）を意識させます。

(3)作成した問題をペアやグループでお互いに出題し合い、解いてみます。



(4)4つの単語と答えの合計5つの単語を使って、つながりのある3文程度の英文を書きます。よりよい英文にするため、ペアやグループでわかりにくいと思う点を出し合い、改善させるようにします。

(5)数名の生徒が、全体に質問・発表します。下は、実際の生徒の作品です。

(生徒が選んだ5語)

clothes, wash, dry, fold → laundry

(生徒が作った英文)

My mother washes my family's clothes every day. I usually fold them. It's my role. But when it rains, we go to the coin laundry to dry them.

ある生徒は「友達と問題を出し合ったり、お互いの英文を確認しあったりすることで、わかりづらい単語や表現を指摘してもらい、改善できた。」という感想を述べていました。

生徒達は、自分で選んだ単語を上手に組み合わせ、まとまりのある英文を作り発表し合うことができていました。単語学習が深い学びとなるよう、相互に関連付けを行うとともに、ペアやグループで協力することで、まとまりのある英文を書く力が育つと考えられます。

開隆堂